



Data 2023-64

監督: マイケル・B・ジョーダン
出演: マイケル・B・ジョーダン/
テッサ・トンプソン/ジョナ
サン・メジャース/ウッド・
ハリス/フロリアン・ムンテ
アヌ/ミラ・デイヴィス=ケ
ント/フィリシア・ラシャド
/ホセ・ベナビデス・Jr/セ
レニス・レイバ/アンソニ
ー・ペリュウ/タデウス・
J・ミクソン/ス Pens・ム
ーア二世

👁️👁️ みどころ

誰も悲しい過去や触れられたくない過去があるものだが、世界ヘビー級チャンピオンとして一世を風靡したクレイドのそれは？『あしたのジョー』（11年）を持ち出すまでもなく、ボクシングに夢中になる男は少年院上がりの不良？必ずしもそうではないはずだが、“アポロ2世”として華やかなボクシング人生を歩んできたクレイドのそれは？

幼き日の兄貴分だった男デイミアンの18年ぶりの出所・再会と共に、クレイドの“過去”が少しずつ明かされ、それが“逆襲”してくると・・・？しかし、『ロッキー』シリーズと同じような本作のハイライトは如何に？

次作に続く場合の主人公が誰になるかを含めて、シリーズの今後に注目！

■□■ “ロッキー不在”でも『クレイド』シリーズ第3作が！■□■

シルベスタ・スタローン主演の『ロッキー』シリーズは全6作も続いた。また、それに続いてロッキーの宿敵だったアポロの息子クレイドを主人公にした『クレイド』シリーズは、『クレイド チャンプを継ぐ男』（15年）（『シネマ37』27頁）、『クレイド 炎の宿敵』（18年）（『シネマ43』81頁）と2作続いた。本作はそれに続く『クレイド』シリーズ第3作だが、そこでは、クレイドも既に世界ヘビー級チャンピオンとして引退の時期を迎えていた。

そんな本作の最大の注目点は、第1作でも第2作でも“キーマン”として登場していたシルベスタ・スタローン演ずるロッキーが影も形も見せないこと。つまり、本作は“ロッキー不在”の『ロッキー』シリーズ作品ということだ。そんな本作の物語は如何に？

■□■ サブタイトルに注目！功成り名を遂げた男の過去は？■□■

“功成り名を遂げた”人が幸せなことは明白だが、それが死ぬ瞬間まで続くかどうかは

別問題。現在、世界ヘビー級チャンピオンとして君臨しているアドニス（マイケル・B・ジョーダン）が住んでいる豪邸を見れば、彼が“功成り名を遂げた”人物であることがよくわかる。

その上、本作冒頭のファイトシーンとして描かれる引退試合でも勝利したアドニスは今、トレーナーだった“リトル・デューク”ことトニー・パートン（ウッド・ハリス）と共に“デルファイ・アカデミー”なるボクシングジムを経営し、スター・ボクサーとして現役世界チャンピオンのフェリックス・チャバス（ホセ・ベナビデス・Jr）を擁していた。私生活でも、彼の妻ビアンカ（テッサ・トンプソン）は歌手からプロデューサーに転身して大成功を収めていたから、一人娘のアマーラ（ミラ・デビス・ケント）はろう者で、ビアンカは進行性の聴覚障害を抱え、母親のメアリー・アン（フィリシア・ラシャド）は健康面に心配はあったものの、家族愛に満たされたアドニスはまさに「功成り名を遂げた」人物だった。しかし、そんな人物を延々とスクリーン上で描いても観客は何も満足するはずはない。なぜなら、映画で観客が求めているのは“ドラマ”だからだ。

しかして、本作のサブタイトルになっている「過去の逆襲」とは一体ナニ？ 誰しも触れられたくない過去はあるものだが、アドニスにとってのそれは一体ナニ？ そして、アドニスの過去と現在、未来を繋ぐ宿命とは？

■□■少年時代のアドニスは？ 兄同然のデイミアンとの絆は？ ■□■

アドニスは世界ヘビー級チャンピオンだったアポロの息子だから、黒人ながらも良家の息子。したがって、『ロッキー』シリーズで見たロッキーのような“貧乏人”とはそもそも生まれからして違うもの。今のアマーラのように、両親に愛されて順調に育ったのでは？ そう思ったが、意外にも本作に描かれる少年時代のアドニスは、グループホームに収容されていたから、アレレ。しかも、そこで兄同然の親友デイミアン（ジョナサン・メジャース）からボクシングの手ほどきを受けていたから、さらにアレレ。父親のアポロは世界ヘビー級チャンピオンなのに、自分の息子に対して一体何をしていたの？ グループホーム出所後もアドニスとデイミアンの仲は変わらなかったが、グループホームにいた頃にひどい虐待をしていた職員のレオンを偶然見かけたアドニスは、衝動的にレオンを襲ったから、さあ大変だ。

若き日の北島三郎が歌った大ヒット曲に『兄弟仁義』がある。そこでは「俺の目を見ろ、何にも言うな 固い契りの義兄弟」と歌われていたが、まさにアドニスとデイミアンはそんな“義兄弟”だった。したがって、レオンの仲間にくまれたアドニスを助けるべく、デイミアンが銃を構えたのは仕方ない。それによってアドニスは無事逃げ出すことができたが、デイミアンは駆けつけてきた警官に逮捕されてしまったから、アレレ……。まだ幼いアドニス逮捕されるデイミアンを見捨てて自分だけ逃げ出したのは仕方ないとしても、刑務所送りとなったデイミアンを、世界チャンピオンになった期間を含めて18年間、一度も訪れなかったというのは如何なもの！ それは、『兄弟仁義』の歌詞に反する行動なので

は？公私共に幸せいっぱいに見える現在のアドニスに、そんな暗い過去があったとは！

しかして、そんなアドニスの暗い過去はそのまま封印されるの？それとも、18年後の今、突然デイミアンがアドニスの前に現れたことによって、アドニスの過去が現在、未来に何らかの形で結びついていくの？

■□■デイミアンと再会！彼の頼みは？アドニスの決断は？■□■

5月14日～28日に国技館で開催された大相撲五月場所では、横綱・照ノ富士が復活優勝を果たし、関脇・霧馬山の大関昇進が実現したが、他方で前半から白星を重ねていた元大関・朝乃山がどこまで終盤の優勝争いに絡むかが注目された。しかし、いかにずば抜けた実力を持ち、「次期横綱間違いなし」と言われていた朝乃山でも、自らの不祥事（外出禁止期間中に接待を伴う飲食店に複数回出入り）によって6場所の出場停止処分を受け、大関から三段目まで番付を下げたことのブランクは大きく、後半以降の三役力士との対戦では力不足を露呈してしまった。

そんな朝乃山に比べて、デイミアンは18年間も刑務所に入っていたのだから、刑務所内でもトレーニングを欠かさなかったとはいえ、ボクサーへの復帰など到底無理。デイミアンから「俺はボクシングに復帰したい」との頼みを聞いたアドニスが、ハナからそれを却下したのは当然だが、ジム内のリングに上がり、スパーリングをしてみると・・・？18年のブランクを経た今、プロボクサーとしてデビューするだけでも不可能に近いのに、デイミアンはさらに、「世界ヘビー級チャンピオン戦に出場したい。俺には時間がない。」とアドニスに対して無茶な要求を！「そんなことは不可能！」とアドニスは言下に否定したが、ならば『ロッキー』シリーズ第1作のロッキーは？現在、世界ヘビー級チャンピオンとして君臨しているフェリックスは次の防衛戦に向けて着々と準備を進めていたが、万一何らかの事故でその試合ができなくなれば・・・？

本作中盤は、そんなあり得ない話が連続する中で、結局新人ボクサーとして登録されたデイミアンとフェリックスとの間で“世界ヘビー級タイトルマッチ”が実現することになるので、それに注目！もちろん、その“かけ率”は圧倒的にデイミアンに不利だったが、試合の結果は意外にも・・・？

■□■ならば俺が！だが事態は既に逆転！奇跡の再現は？■□■

ボクシングのチャンピオンには、例外的に井岡一翔のようなサラブレッドもいるが、そのほとんどは貧困や逆境の中で這いずり回りながら頭角を現してきたハングリーな男だ。全日本プロレスのジャイアント馬場と新日本プロレスのアントニオ猪木が“両雄並び立たず”のこゝろわご通り分裂した根本原因は、“エリートVS叩き上げ”の違いだと私は考えている。私の大学時代に大ヒットした、ちばてつやのボクシング漫画『あしたのジョー』でも、主人公たちはほとんどが少年院あがりの不良ばかりだった。もちろん『ロッキー』シリーズにおけるロッキーはその一方の代表だ。

ところが、『クリード』シリーズにおけるクリードは、少年時代に本作に見るようなグル

ープホームを体験したとはいうものの、世界ヘビー級チャンピオンアポロの息子だから、アポロが急死してしまったとはいえ、ロッキーと巡り合った後は順調に“アポロ2世”としてボクシングの王道を歩んできた男だ。さらに、アドニス世界ヘビー級チャンピオンの栄光だけでなく、家族にも恵まれ、幸せの絶頂の中で引退し、トレーナーのトニーと共に順調な第2の人生を歩んでいた。ところが、そんなアドニスがトニーの反対を押し切って強行したデイミアン VS フェリックスの世界タイトルマッチでは何と、フェリックスが敗れ、デイミアンが新チャンピオンになってしまったからアレレ。しかも、新チャンピオンになった後のデイミアンは手の平を返したように、アドニスに対しても傍若無人の態度を示していた。

そんな状況下でのアドニスの決断は、ボクシング界への復帰とデイミアンが持つ世界ヘビー級チャンピオンへの挑戦だ。「フェリックスがダメなら俺が！」そんな心意気は買いたいが、既にアドニスはボクサーとして引退している身。片やデイミアンは遅咲きとはいえ、一発の挑戦で獲得した世界ヘビー級タイトルの保持者としての栄光を目下独占中だ。そんな2人の対決の実現自体が、アントニオ猪木 VS モハメド・アリの異種格闘技戦の実現と同じくらい奇跡だが、さて、『ロッキー』シリーズで再三見たような奇跡は再現できるの？

■□■スポーツ映画初のIMAXカメラ撮影は？第4作は？■□■

私はボクシングの試合をテレビで見るのが大好きだが、12ラウンドでも15ラウンドでも、終始駆け引きばかりで殴り合いがほとんどなく、判定も微妙。そんな試合が面白くないのは当然で、時間の無駄だったと思ってしまう。その最たるものが、1976年のアントニオ猪木 VS モハメド・アリの異種格闘技戦だった。しかし、ボクシング映画は絶対にそうではなく、ハイライトとなる試合のシーンの殴り合いは現実離れた激しいものが多い。最初に『ロッキー』（76年）を見た時の興奮は忘れられないし、『ロッキー』シリーズ全作のハイライトシーンは何度見ても飽きることがない。それは、『あしたのジョー』（11年）『シネマ26』（208頁）等でも同じだ。しかして、本作ラストのアドニス VS デイミアンの対決はスポーツ映画初のIMAXカメラで撮影されたそうだが、その迫力は如何に？

他方、本作ラストで涙の勝利を収めたアドニスは、今度こそ真正銘の引退！すると、次の世界ヘビー級チャンピオンは誰が承継するの？そんな興味の中で注目されるのが、ろう者ながらボクシング大好き少女のアマーラ。本作でも折に触れて、父親の指導よろしきを得て、ボクシングに情を出している姿（？）が登場するので、それにも注目。今後、『クリード』シリーズの新たな3部作が生まれるとすれば、ひょっとしてその主人公は成人した女ボクサー、アマーラ・・・？そんな想像も膨らんでくるが、さて？

2023（令和5）年6月5日記